

幼稚園等教諭教員育成指標モデル

キャリアステージ			採用時に本県が求める力	＜第1ステージ＞	＜第2ステージ＞		＜第3ステージ＞		
資質・能力			養成期	基盤形成期	伸長・充実期	深化・発展期	熟達期		
素養	ICTの活用	特別な配慮・支援	保育力	A	使命感・倫理観	○ 教育的愛情と熱意をもって教育活動に臨もうとしている。 ○ 社会人としての常識やマナー、道徳性(情報モラルを含む。)を身に付け、法令遵守の精神に基づいた行動をしている。	○ 「とくしま」を愛し、徳島教育大綱に示されている「人材」の育成を目指し、使命感と情熱をもって、たくましく、粘り強く教育活動に取り組んでいる。 ○ 教育公務員としての自覚をもち、法令やセキュリティポリシー等を遵守し、誠実かつ公正に職責を遂行し、家庭や地域の信頼を得ている。	○ 使命感と教職への誇り、たくましい精神力と柔軟性をもって、教育活動を推進している。 ○ 家庭や地域の信頼に応え、法令やセキュリティポリシー等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。	
				B	識見・学び続ける力	○ 学び続ける意欲をもち、他者の意見を謙虚に受け止めている。	○ 知見を広げ、物事を的確に判断するとともに、主体的に研修に取り組んでいる。	○ 豊かな経験に裏打ちされた識見を有し、課題意識と探究心をもって自己研鑽に努めるとともに、範を示している。	
				C	社会性・コミュニケーション力	○ コミュニケーションスキルを身に付け、他者と積極的に関わり、助け合っている。	○ 教職員、家庭や地域と幅広く関わり、自分の考えを適切に伝えながら、助け合っている。	○ 組織のコミュニケーションを活性化するとともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイプ役となり、支え合う環境づくりをしている。	
						○ 自他を大切にし、人権感覚を身に付け、互いに尊重し合う人間関係を築いている。	○ 幼児一人一人の抱えている悩みや願いを把握し、差別やいじめを許さない集団をつくるとともに、教育的愛情をもち、人権を尊重し、行動している。	○ 園や地域の人権に関する課題の解決に向けて、関係機関等とともに取り組み、人権尊重の精神が高まるよう家庭や地域に広めている。	
				D	組織マネジメント力	○ 組織の一員として、目標と自分の役割を理解し、協働して責任を果たそうとしている。	○ 園の経営方針を理解し、報告・連絡・相談を適切に行いながら、日々の教育活動に協働して取り組んでいる。 ○ 園務分掌等の業務内容を理解し、計画的に職務遂行に努めている。	○ 園の強みと弱みを分析したり、PDCAサイクルを活用したりしながら、組織を活性化させている。 ○ 園務分掌等の業務を、周囲の教職員と調整しながら遂行している。	○ 創意工夫や企画力を発揮し、他の教職員とも連携・調整をしながら、組織を活性化させている。 ○ 園務分掌等の業務の工夫改善を図るとともに、若手教員に助言をしている。
						E	連携・協働力	○ 家庭や地域と連携する重要性を理解し、ボランティア活動や地域の行事等へ参加している。	○ 家庭や地域、他校種との連携・協働の意義を踏まえ、積極的に関わっている。 ○ 互いの課題や悩みを解決するため情報交換を積極的に行い、先輩教員に相談したり助言を求めたりしている。
		F	危機管理能力	○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する危機管理の重要性を理解し、危険を察知したとき、状況に応じた行動をしている。	○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する危機管理の知識を身に付け、早期発見や想定外の事態への対応に努め、緊急時に自分の役割を果たしている。	○ 危機管理に対する意識を高め、危険を予測して行動するとともに、安心・安全に配慮した環境づくりをしている。	○ ヒヤリハットの事例の共有や環境の改善、緊急時のシミュレーションを行い、対応を考え、園の中心となって事故等の未然防止に向け行動している。	○ これまでの経験を生かし、地域と協働した創意工夫のある安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する取組を発信したり、危機管理体制づくりに参画したりしている。	
		担任力	A	カリキュラム・マネジメント力	○ 幼稚園教育要領等の「ねらい」「内容」や発達の連続性・関連性を理解している。 ○ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえて行う日々の実践・反省を、保育やカリキュラム改善に結び付けている。	○ 園の教育目標を踏まえ、幼児の実態に応じ、作成の意図を考えながら、園のカリキュラムを活用している。 ○ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえて行う日々の実践・反省を、保育やカリキュラム改善に結び付けている。	○ 園の教育目標を踏まえ、幼児の実態や新たな教育課題に対応するため、目的や意図を明確にしたカリキュラムを提案している。 ○ 反省・記録・学校評価等の結果に基づき、園の中心となって、長期的・継続的な改善策を提案し実践している。	○ 園の教育目標を踏まえ、発達の連続性・関連性や小学校教育との接続を見通して、園の特色を生かした創意工夫のあるカリキュラムを作成している。	○ 地域の実態や園の教育目標・教育活動全体を踏まえながら、カリキュラムを見直し、組織的に改善したり調整したりしている。
			B	保育構想力	○ 幼児の遊びや活動の姿、興味や関心を想定しながら、教材を分析し、保育を構想している。	○ 幼児の実態に応じ、育みたい資質・能力の育成に向け、指導の重点を踏まえ、ねらいと評価を関係付けて保育を構想し、環境の構成を行っている。	○ 幼児一人一人に応じ、育みたい資質・能力の育成のために、教材研究・教材開発(環境の構成を含む)に取り組み、創意工夫のある保育を構想している。	○ これまでの実践や経験を基に、教材開発や保育構想に関する専門性を高め、改善につながる助言をしている。	
			C	保育実践力	○ 基本的な保育技術を身に付け、幼児の遊びの様子を把握しながら保育を実践しようとしている。	○ 育みたい資質・能力の育成に向け、援助・環境の構成等の保育技術を身に付け、活用している。	○ 最新の知見に基づき、新たに身に付けた保育技術を積極的に活用し、保育を展開するとともに、若手教員への助言・育成にあたっている。	○ 幅広い情報を基に、自分の保育技術を更新しつつ、新しい方法を取り入れた範を積極的に示したり、園全体の保育力向上を働きかけたりしている。	
					○ 幼児の発達段階に応じた保育の方法を理解している。	○ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、発達の過程を評価し、保育を実践している。	○ 学びの芽生えや長期的な変容にも目を向け、一人一人の発達の過程を的確に把握し、保育を実践している。	○ 個と集団の質的な学びの深まりを把握し、意図的・計画的な保育を展開している。	
			D	保育省察力・改善力	○ 保育を分析して改善する手立てを理解し、実践しようとしている。	○ 日々の実践を記録し、省察・改善する習慣や他の教員の実践に学ぶ習慣が身に付いている。	○ 園内や市町の研究会等で研究保育を積極的に行うとともに、自分の保育を客観的に評価し、改善につなげている。	○ 園全体の保育改善に取り組む体制づくりに努め、教員の個性を生かす助言をしている。	
	A		幼児理解・指導力	○ 幼児理解の意義や、幼児の心身の発達の過程・特徴について理解している。	○ 幼児一人一人の人格を尊重し、共感的理解に努めて信頼関係を構築するとともに、社会的資質や行動力を高めるよう指導・支援や環境の構成をしている。	○ 幼児の発達や個性等をより多面的に理解して信頼関係を構築し、長期的な視野をもって社会的資質や行動力を獲得できるよう意図的・計画的に指導・支援や環境の構成をするとともに、若手教員に助言をしている。	○ 幼児を深く理解し、細やかな配慮をするとともに、全ての教職員で幼児の理解や指導・支援の方針について共通理解を図る体制づくりをしている。		
	B	集団づくり力	○ 担任の職務内容や集団づくりの意義を理解し、学級経営の基本的な方法を身に付けている。	○ 学級経営方針を基に、一貫性のある指導・支援をしている。	○ 様々な遊びや集団活動において、よりよい集団に高め、集団相互の関わりを活性化させるとともに、若手教員に助言をしている。	○ 園全体の集団づくりの取組を視野に入れ、活性化させるための具体的方策を提案している。			
	C	課題解決力	○ 園生活の中で生じる様々な課題の発見と対応の方法について理解し、積極的に課題解決に取り組もうとしている。	○ 様々な課題に気づき、幼児、保護者、他の教職員と相談しながら、的確に課題解決を図っている。	○ 課題の未然防止や迅速な発見に努め、必要に応じて専門家と連携しながら課題解決を図り、その様々な方策について、若手教員に助言をしている。	○ 園が直面する様々な課題を把握し、組織的できめ細やかな保育が行われるよう働きかけている。			
	D	未来ビジョン育成力	○ キャリア教育・消費者教育・主権者教育の重要性を理解している。	○ キャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえ、自分の役割を自覚できる場等を設定し、幼児の自己有用感を高めている。	○ グローカルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえ、異年齢集団を組織したり、他校種や家庭、地域、企業、関係機関等との連携を図ったりしながら、あらゆる教育活動を通じて指導・支援をしている。	○ 園の教育活動全体を通じて、グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえた助言をしている。			
	A	個に応じた指導・支援力	○ ダイバーシティの理念及び特別支援教育の基礎的な用語や、個に応じた支援の必要性を理解している。	○ 幼児のニーズに対応するための専門性を高め、他の教職員とともに本人・保護者のニーズを踏まえた個別的教育支援計画や個別の指導計画を立案して、個に応じた指導・支援に取り組んでいる。	○ 幼児のニーズに対応するための専門性を高め、合理的配慮の視点から園内での連絡・調整を行うなどして、園生活全体を通じて個に応じた支援を行っている。	○ 個々の幼児に対する合理的配慮の実施について助言したり、障がい者理解の促進について、家庭や地域への発信に努めたりしている。			
			B	チームによる実践	○ 関係する園内分掌(特別支援教育コーディネーター等)や関係機関(医療・福祉・労働)のそれぞれの役割を理解している。	○ 保護者や特別支援教育コーディネーター、他の教職員と連携・協働しながら、指導・支援に取り組んだり、幼児同士の相互理解が深まるような交流及び共同学習に取り組んだりしている。	○ 園内で情報共有を行ったり、外部の専門家や関係機関と連携したりして、ケース会議等を実施している。	○ インクルーシブ教育システム構築に向け、関係機関等と連携しながら、園全体で幼児を支援する体制の整備を推進している。	
			C	「やってみよう」「やってよかった」を育む支援力	○ 将来の社会参加と自立の視点に基づき、発達障がい等の特性による生活上の困難や、問題行動への基本的な支援方法を理解している。	○ 幼児が見通しをもって園生活を過ごせるように、園環境の整備やルールの明確化を図るとともに、コミュニケーションスキル向上等に関する指導・支援を行っている。	○ 全ての幼児の望ましい行動を育てるために、ポジティブ行動支援の手法を用いて、課題の解決や問題の予防に取り組んでいる。	○ 個別支援や、ポジティブ行動支援の実践について、全教員で効果を確証し、幼児の成長を共に喜び合う機会を計画的に設定している。	
	A	ICTを効果的・効率的に活用する力	○ 保育や園業務に必要なアプリケーション操作や情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。	○ 所属する組織のセキュリティポリシーを理解し、保育、環境の構成、保育記録、学級事務、園務等において、ICTを活用している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、ICTを活用して効果的・効率的に保育や園業務を行っている。	○ セキュリティポリシーを遵守し、ICTの効果的・効率的な活用について教職員に提案している。			